

2021 年度年度 愛生会看護専門学校 自己点検・自己評価

本校の教育の点検と今後の課題を明らかにすることを目的とし、2021 年度卒業生を対象にアンケート調査及び教職員でカリキュラム評価を実施いたしましたので、以下に報告いたします。

1. 看護師養成所の教育活動などに関する自己評価指針に基づいた評価

教育課程経営 (2.9)
カリキュラム開発の取り組みをしながら現行の教育課程を振り返ると、教育目的・目標との一貫性、整合性などの課題が明確となった。旧カリキュラムで教育を受ける学生の不利益につながらないように、教育方法の工夫や評価の明確化を行っていく。また、コロナ禍において臨地における看護実践体験が減少していた。
教授・学習・評価 (2.9)
コロナ禍においては遠隔授業や分散登校の措置をとるため、授業準備は対面・遠隔の双方に対応できるようにしなければいけない。十分に教材研究する時間を確保できない状況は、教員の不全感を残す。また臨地実習から学内実習での代替については、模擬患者や模擬カルテを作成し、リアルな状況を設定するなど心掛けた。
経営・管理過程 (2.8)
コロナ禍における医療施設の逼迫は、財政基盤や組織体制に影響を及ぼした。時々の状況判断により、運営の変更を余儀なくしなければならないことへの丁寧な説明と理解を得ることを怠らないようにする必要がある。
入学 (3.0)
対面でのオープンキャンパスができないこともあり、リモートを活用したオープンキャンパスや個別対応の企画、ホームページ上で学校の様子がわかるようにスライドショーを作成するなどをして学生募集を試みた。
卒業・就職・進学 (2.4)
看護部との連携強化を掲げていながら、コロナ禍で企画が中止となり十分な支援ができず、卒業生の離職率は上昇してしまった。また、卒業生の動向についての統計的整理を行う体制整備は不十分である。
地域社会/国際交流 (2.1)
地域活動の参画計画はあったが、コロナ禍で中止となり実践できていない。しかしながら ICT を活用して、遠方より特別講義や国際的な活動をしていた看護師の授業を受講できた。
研究 (1.7)
優先すべき事案があり、個々の研究活動の実施は困難であった。

図1 自己点検・自己評価



2. 学生のアンケート結果を踏まえた考察

教育理念・教育目的のわかりやすさ、理解 (3.7)

学年ガイダンスや実習開始時などの機会に、本校が目指す卒業生像を伝え方向性を示したことにより学生へ周知することができたと思われる。

教育目標 1～8 の到達(平均 4.0)

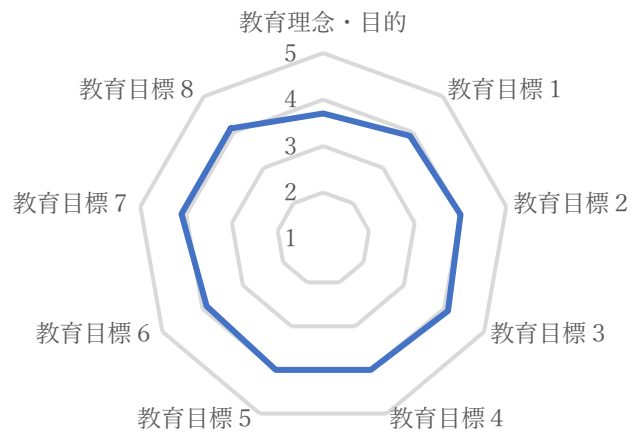
概ね教育目標に到達したと考える。本校は学年到達目標という考え方であるが、学生の成長を段階的な目標設定とするのではなく、学生個々の潜在能力を刺激し成長を促すことができるようにすることが課題である。

教育環境、教育活動 (3.8)

全教員が学生の教育支援や精神的支援をおこなっており、丁寧な関りは学生に伝わっていた。しかしながら、3年間の学校生活の2年間はコロナ禍の制約を受けていた学生であったため、厳しさから「融通がきかない」という意見もあった。また、感染予防策をとらざるを得ないため密を避ける行動から、授業時間内における看護技術体験が乏しくなることへの不満と不安を抱えていることが明らかになった。

*評価は、「とてもそう思う」(5点)、「どちらかといえばそう思う」(4点)、「普通」(3点)、「どちらかといえばそう思わない」(2点)「全く思わない」(1点)として集計し、平均点を求めました。

図2 卒業生 教育目的・目標到達評価



(N=40) 回収率：100%